



教皇フランシスコと本



上智大学神学部教授
イエズス会司祭

ホアン・アイダル

教皇フランシスコというと、多くの人は「行動する人」というイメージを思い浮かべるでしょう。たしかにそれは事実であり、彼のことをよく知る人は、教皇が一日に為すことの多さに驚いて、「フランシスコの一日は、普通の人より少なくとも10時間は長い」と冗談を言うほどでした。しかし、このことは事実である一方で、フランシスコのもう一つの側面、「本を愛する人」ということを私たちに忘れさせてしまいがちです。

教皇フランシスコは、単に熱心な読書家だけでなく、本には人々の心を変える力があると確信している人でもありました。私はかつて彼が次のように語るのを聞いたことがあります。『行動は千の言葉に勝る』とよく言われるが、私はそうは思いません。言葉が人の心を変える力を持つというもつとも明確な証拠は、多くの聖人たちの回心です。聖アウグスティヌス、聖イグナチオ、アビラの聖テレサ。これらの聖人や他の多くの聖人たちは、体験によってではなく、一冊の本を読むこ

とによって回心したのです。」この確信ゆえに、ある母親から「私の息子がもつと神様に近づくために、私は何をしたら良いでしょうか」と尋ねられた時にも、彼は「神様に近づくための良い方法は、良い本、良い小説、良い詩を読むことだと思います」と答えました。

教皇は文学に特別な敬意を抱いていました。「偉大な詩人、作家、音楽家は、人間の内にあるドラマ、探求心、心の傷をより深く理解する助けとなります」と話しています。おそらくそういうわけで、彼は司祭養成課程の中に文学を含めるべきだと主張していたのです。「文学の学びは、神学生が、自分たちが福音を伝える人々の人間性をより深く理解することを助けてくれます」と『ラ・チヴィルタ・カトリカ』誌のインタビューで語っています。

教皇フランシスコは、多くのアルゼンチン作家や詩人に加えて、ドストエフスキーの熱心な読者でもありました。先に挙げたインタビューでは「ドストエフスキーからは、多くの神学者からよりも、さらにたくさんこのとを学びました」と話しています。彼がアルゼンチンのイエズス会神学院院長だったとき、特別な日にはよく神学生たちに祈りのための資料を渡していました。彼はそ



©イエズス会日本管区

のテキストについて神学生たちに講話をし、翌日には皆で祈りを捧げました。「諸聖人の日」には、祈りのために『カラマーズフの兄弟』の一節が配られたのを覚えていいます。それは、神以外に人生のよりどころを持たない、素朴で貧しい人々について語っている文

章でした。フランシスコはこう話しました。「今回私はあなたたちに、教会が聖別した偉大な聖人について祈るのではなく、毎週末あなたたちが奉仕する教会で出会う、貧しく敬虔な聖人たちについて祈って欲しいのです。」

おそらくこの「本への愛」が、教皇が最も推奨

する祈りのかたちの一つである「霊的読書」―伝統的にはレクチオ・デイヴィナと呼ばれる―の背景にあるのだろーと思います。使徒的勧告『福音の喜び』では、一つのセクションが霊的読書のために使われており、その中で次のように書かれています。「みことばを通して主がいわんとすることに耳を傾け、聖霊によって造り変えてもらうための具体的な方法があります。それは「霊的読書」と呼ばれるものです。これは、わたしたちがみことばに照らされ新たにされるための祈りの時間の中で、神のことばを読むことです。(152)」

教皇フランシスコが休暇を取らないことはよく知られていました。それは教皇となつてからも変わらず、彼は猛暑のローマに留まっていました。なぜ休暇を取らないのかと尋ねられると、彼はこう答えました。「私の休暇は、いつもより少し遅く起きて、好きな本を読む時間をいつもよりたくさん取ることです。」

この暑い夏を過ごす私たちにとつても、これはとても良いアドバイスでしょう！



©イエズス会日本管区



©alice

2024年6月20日、Building Bridges

Across Asia Pacific : A Synodal Encounter
between Pope Francis and University Students

「アジア太平洋地域に橋をかける」教皇フランシスコと大学生が『ともに歩む』ための出会い」(シカゴローラ大学主催、教皇庁ラテンアメリカのための特別委員会共催)が行われました。

これは学生が教皇と直接対話するプロジェクトで、事前にグループディスカッションを重ねて準備を行い、当日はオンラインで教皇フランシスコに直接発表し、その後活発な対話がなされました。

Building Bridgesに参加して

上智大学大学院博士後期課程神学研究科

森永 恵理華

私は、教皇フランシスコとアジアの学生たちが心理的問題や信仰を保つことの困難さ、差別、排除、孤独や平和などの社会的課題について分かち合う機会を提供する「Building Bridges」という企画に参加しました。

この教皇フランシスコとの直接的な対話を通して改めて感じたのは、第一に教皇フランシスコが若者のことを深く想っておられること、第二に人と人との交わり、そしてその近さを何より大切にされているということでした。

教皇は、私たちとの分かち合いを通して、現代の人々が孤独や排除、差別に直面するなかで信仰や自己の喪失が問題となっていることに強い懸念を示



©LUC

されました。そして、「自分自身の一番弱いところを理解して、他者からの支えを受け入れなさい。自分のアイデンティティを持つことに集中して、常に人と団結し、協力し合ってください」と語られました。それは、自分の弱さを認めて自己理解を深めることで人は強くなり、自分を開くことで他者との間に関係が築かれ、それが真の愛へとつながるということを強く訴えるメッセージでした。

教皇は、この親密さと交わりこそが人を強くし、本来的な人間の豊かさを保つことができるのだという深い人間理解を、この対話を通して改めて示されました。他者との連帯の重要性を語り、「誰も排除してはいけません。すべての人に思いやりと愛を示してください」と告げられた教皇の言葉は、今も強く印象に残っています。また、差別や分断、孤独に真摯に向き合い、他者との連帯を築くには、自らの弱さを知り、それを受け入れ、他者の支えに身を委ねることが重要であると気づかされ、これは私にとって貴重な学びとなりました。



2019年の訪日時、教皇フランシスコは上智大学内のイエズス会修道院SJハウスで、イエズス会日本管区の高齢の会員たちと面会を行いました。当時、ロヨラハウス(イエズス会の高齢会員のための修道院)で働いていた山内保憲神父にお話を伺いました。

—どのような経緯で面会が行われることになったのでしょうか。

山内 教皇様からイエズス会日本管区長宛てに「ニコラス神父に会いたい」という要望がありました。ニコラス神父は上智大学で教え、日本管区長やイエズス会総長などを務めており、フランシスコが教皇に就任した時のイエズス会総長でした。要望があった頃のニコラス神父は難病を患ってロヨラハウスに入居していて、外出はとても難しい状態だったので、日本側は「面会は不可能」と回答しました。教皇様からは二回要望があり、二回とも不可能と回答しま

したが、三回目の連絡では「ロヨラハウスにいるイエズス会全員をSJハウスに連れてくるように」という「命令」に変わっていました。私はロヨラハウスのスタッフや、日頃お世話になってる医師の皆さんに協力をお願いして、面会を実現するための準備に取りかかりました。

—面会はどうのような様子でしたか。

山内 当日はニコラス神父含め会員20人がSJハウスに向かいました。教皇様は最初に、この面会のために準備し、同行して会員を連れてきてくれたスタッフたちに感謝を伝えました。そして会員一人ひとりとお話になりました。会員たちにとってそれがどんなに大きな喜びだったか、写真を見ていただければわかると思います。

面会の後に、ボランティアで同行してくれた医師が私に「今までの私の職業人生を神に祝福されたと感じた」と話してくれました。その人は洗礼を受けていませんが、教皇様との出会いで神の祝福を感じたということからは、「神秘体験」として私の中に残っています。私の中に残っている「全員を連れてくるように」という命令は、教皇様がいつも話している「共に歩む」とことや、「誰一人取り残さない」ことを表していると感じています。



©イエズス会日本管区



©イエズス会日本管区
(右奥)山内神父

今季のおすすめ図書

2025年上半期の新着図書の一部をご紹介します。

	タイトル	著者
1	自由と恩寵	エディット・シュタイン
2	哲学者と詩人 ヘルクソンとクローデル	中村弓子
3	倫理学講義 第1巻・第2巻	山田晶
4	信じる力	齋藤孝
5	君は捨てたものじゃない！	仲野好重
6	三大一神教のつながりをよむ	山本芳久
7	〈出会い〉の旅 わが師わが友	宮田光雄
8	パリ＝東京往復書簡	高橋たか子/ 井上洋治
9	灰の箴言 暴力、贖罪における苦しみ、救済の探求	R.N.ブロック/ R.A.パーカー
10	神秘 すべての道の彼方	W.イエガー/ A.グリュン
11	戦後日本とキリスト教 敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで	富坂キリスト教 センター編
12	聖書の基礎知識 新約・旧約外典篇	C.ヴェスターマン/ F.アーヒウス
13	「イエスの言語」をめぐる論争史 古代から近代まで	高橋洋成
14	増補 古典としての旧約聖書	月本昭男
15	増補改訂版 新約聖書の本文研究 伝達・改悪・回復	B.M.メツガー/ B.D.アーマン
16	すべての人のためのルカ福音書	N.T.ライト
17	福音書を哲学する キリスト教会の誕生とイエスの教え	八木雄二
18	パウロとパレスチナ・ユダヤ教 宗教様態の比較	E.P.サンダース
19	聖体(エウカリスチア)の秘跡	石脇秀俊
20	ゆるしの秘跡	石脇秀俊
21	オブチナ修道院とロシア文学 ロシア作家の創作の源泉としてのオブチナ文献をめぐる	清水俊行
22	関西の隠れキリシタン発見 茨木山間部の信仰と遺物を追って	M.N.ラモス/ 平岡隆二編
23	カルメル山登攀	十字架の聖ヨハネ
24	悲しみの向こう 希望の扉を開く言葉 366	片柳弘史
25	ローマの道化師 独り静まること、独身でいること、祈り、観想についての省察	ヘンリ・ナウエン
26	傷ついた癒やし人となる ヘンリ・ナウエンの歩みと言葉	酒井陽介

	タイトル	著者
27	押田成人 遊行の巡礼者	宮本久雄/ 石井智恵美編
28	エクソシストは語る エクソシズムの真実	田中昇
29	ユダヤ人の歴史 古代の興亡から離散、ホロコースト、シオニズムまで	鶴見太郎
30	イスラエルについて知っておきたい30のこと	早尾貴紀
31	自由 上・下	アンゲラ・メルケル
32	ローマの教会巡礼ガイド	高久充
33	戦時哲学における国家と宗教 田辺元・南原繁・三木清を中心に	森田伸子
34	サイレント・フォールアウト アメリカ核実験を止めた女性たちとその真実	伊東英朗
35	ガザの光 炎の中から届く声	R.アルアライール他
36	「国境なき医師団」をそれでも見に行く 戦争とバングラデシュ編	いとうせいこう
37	自分ゴトとして考える難民問題 SDGs 時代の向き合い方	日下部尚徳
38	非戦と抵抗の教育 障害児教育の源流にあるもの	鈴木文治
39	死に向き合って生きる	島蘭進
40	ぼくを忘れていくきみと アルツハイマー病の妻と生きる幸せ	吉田晋悟
41	キリスト教美術探訪	吉松純
42	音楽も人を救うことができる 皆川達夫セレクション	皆川達夫著/ 樋口隆一編
43	遠藤周作の生涯と文学 神学と文学の接点から見る	兼子盾夫
44	ゲーテはすべてを言った	鈴木結生
45	やなせたかしの生涯 アンパンマンとぼく	梯久美子
フランシスコ教皇関連		
46	ガラテヤの信徒への手紙・聖ヨセフ 教皇講話集	教皇フランシスコ
47	教皇フランシスコ 人々に尽くした88年の生涯 1936-2025	ナショナル ジオグラフィック編
48	バチカン機密文書と日米開戦	津村一史



聖三木図書館からのお知らせ

最新の情報はホームページ（Facebook）、お電話や留守電メッセージにてご確認ください。
皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

開館

月～土 11:00～18:00

日 10:00～17:00

休館日 木曜日、国民の祝日、毎月末

※館内カレンダーまたはHPにてご確認ください。

入館時に利用カードを確認します。

「当館所蔵資料の閲覧」以外での閲覧席のご利用は
お断りしております。

貸出

・貸出延長

返却期限内で、予約の入っていない資料に限り、
1回のみ延長できます。（新着図書はできません）
開館時間内にお電話またはカウンターのみで受け
付け、手続きした日から3週間延長します。
※返却日を過ぎると延長はできません。

・返却した資料を続けて借りることはできません

返却処理日の翌日から数えて14日間は、同じ資料
を借りることはできません。

（例）8月1日に返却処理→8月16日貸出可能
利用者が平等に資料を利用する機会を確保するた
め、ご理解とご協力をお願いいたします。

・郵送貸出

お電話またはホームページの郵送貸出フォームか
らお申込みいただけます。発送は着払いのみです。

返却

開館中：カウンター 閉館中：1F 返却ポスト

※郵送・宅配での返却も可

聖三木図書館報『みき』第18号

イエズス会聖三木図書館

〒102-0083

東京都千代田区麹町 6-5-1 岐部ホール 2F

TEL: 03-3262-0364

ホームページ:

http://www.jesuits.or.jp/~j_seimikibun/

題字: Sr. 北爪悦子(師イエズス修道女会)

問い合わせ

お電話またはホームページの問い合わせフォームよ
り受け付けています。

資料の所蔵確認、調べている事柄に関連する資料の紹
介や、調べ物のお手伝いをすることもできます。
質問内容によっては回答までにお時間を頂戴する場
合やお答えできない内容もございますので、ご了承く
ださい。

資料の所蔵確認は、館内検索機・蔵書検索サイト
（OPAC）にて検索が可能です。サイトはホームペー
ジからご覧いただけますのでご利用ください。

利用カードの申込・更新

当館は会員制の専門図書館のため、入館・ご利用には
会員登録が必要です。

「聖三木図書館利用カード」（有効期間1年）の新規
登録及び更新手続きは、開館時間内に館内カウンター
で、または来館せずに行うこともできます。

来館せずに登録をご希望の方は、ホームページの「利
用登録」をご確認の上、新規会員登録フォームをご入
力いただくか、お電話にてお問い合わせください。

【年会費】 表示価格はすべて税込です。

一般会員 3,000 円

賛助会員 5,000 円・10,000 円

※一般会員年会費を超える金額は寄付として申し受けます

【一日利用】

一日利用料 500 円（貸出不可）

当日のみ、当館所蔵資料の閲覧が可能

登録の際、免許証・保険証など（学生の方は学生証）
をご提示いただきます。

利用カード紛失やお忘れの場合は100円（税込）の
再発行手数料をいただきます。

上記会員区分以外に、イエズス会員、カトリックの司祭・修
道者・神学生の会員区分は継続いたします。

※2024年4月より会費価格を改定いたしました。